

「税金がつくる未来を信じて」

(松島町立松島中学校)

税金。私にとって税金というものに目を向けるのは消費税くらいだった。

私はこの税の作文を書くにあたって私達学生の身の回りでどんなものに使われているのかが気になり調べてみた。

調べてみたところ、私達が授業で使う教科書や理科の実験道具などの教育費、さらにはゴミの処理費や医療費など、私達の生活に必要であり、普段何気なく使っていたものまでもが税金による恩恵を受けていたことを知り今の私の暮らしは税に支えられていたものだと考えさせられ、意外にも身近にあるものだと

実感した。

そして、私は身近にある税金の使い道の中で医療に関することに着目した。

私はもともとアレルギーを起こしやすい体質で幼い頃からアトピー性皮膚炎に悩まされてきた。そのため軟膏などの薬をいくつか処方されていたが、子供を対象に保険が適用される医療費や薬代は無料という制度を知り、私達が健康で安心して生活するためのサービスなどを提供するために税金が使われていたことも知り、医療費を気にせず安全で質の高い医療を受けることができる。

税金は大人が負担するものがやはり多いが子供や学生、自分自身も消費税を納税することで少しばかりではあるが、納めた税金によって今後の社会や将来社

会を支える子供達の為に貢献することができている
と考えると、うれしい気持ちになった。

しかし、最近では税が負担という意識が高まってき
ていると感じる。私も大人になったら税が負担に思い、
税に対する捉え方が変わってくるのかもしれない。
だからこそ私は税が社会と人をつなぎ、未来をよりよ
くする重要な役割を担っているということを広め、
納税の意義や目的を理解し続けることが大切になる
と思う。税に対する印象を、「負担」から「私達と未
来の人達をつなぐ橋」に変え、税金の大切さを正しく
認識することがよりよい豊かな社会を実現するため
の目印になるんじゃないかと思う。

最後に、私はこの作文を書くにあたって、今までの
税の捉え方が変わり、税金のことに少し興味をもつこ

とができた。税金の意義を理解し、幼い頃から税金に支えられていたのだと感謝の気持ちが芽生えた。

私はもっと税についてたくさんの人に知ってもらいたい。そして税について新たな発見をしてもらいたい。一人一人が正しい認識をすることが豊かな社会への近道になると思う。

自分もより学びを深め、税金がつくる未来を信じて、自ら進んで納税に取り組める人間になりたい。